

視覚障がいの方に

朗報

「夜盲」を助ける画期的メガネが発売される 難病団体が各地で補装具の対象とするよう要望

天草市や新宿で補装具として認め、助成を開始

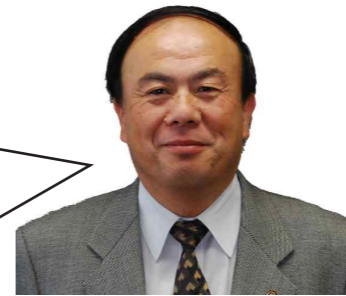


ホヤメガネのホームページから

全国で初めて、このメガネの助成を始めたのが天草市。「(天草)市では、日常生活用具給付事業として、令和元年7月より暗所視支援眼鏡の給付ができるようになりました。暗所視支援眼鏡によって、網膜色素変性症等による日常生活や学校・仕事における不自由さの改善が見込めます。」と周知・啓発しています。すでに新宿区も同様の制度をつくりました。



夜盲と視野狭窄は網膜色素変性症の典型的な症状です。とくに、まだ働いている人の場合、仕事にも大きな障害になっています。視野狭窄の補正にも対応している眼鏡だそうです。ぜひ、釧路市としてもこのメガネを障がい者の「日常生活用具」(補装具)として認め、助成してほしいと思っています。



村上議員の母親がこの病気で、ずっと患者団体を支援して一緒に活動しています。

暗くなると途端に物が見えなくなる「夜盲」。その大半は網膜色素変性症という難病の患者です。遺伝子治療、網膜再生、人工網膜と、研究が始まっていますが、まだ実験段階です。そうしたなかで、「夜盲」の方が、暗いなかでも、視力を保てる補助メガネが開発、市販されました。小型カメラで物をとらえ、コンピューターで昼間のような明るさに処理して、眼鏡の内側のスクリーンに映し出すというものの。

「夜盲」で夜一人で外出できなかつた人が普通に出歩けるようになる画期的なツールです。しかし、難はその価格、約40万円と、とても気軽に買えるものではありません。そこで患者団体である網膜色素変性症協会は、自治体に対して、「車いすなどと同じように、障がいの補装具として認めてほしい」と運動しています。認められると、購入費の9割が補助されることとなります。

2020. 1. 19

村上かずしげ 通信

発行 共産党市議団 Tel 23・5212